

## シリーズ

# ごみの資源化施設の建設に関する意見交換会

## 草の根 レポート ⑥ 3月11日 於て 小山市民センター

### \*はじめに

町田市の諮問を受け、2009年6月から2011年3月にかけて『廃棄物減量など推進審議会』（会長 細見正明氏）が開かれ10年後の町田市のごみ処理のあり方について答申を出した。答申の基本理念は「町田市43万市民は、地域や地球の環境を守るために、「ごみになるものを作らない・燃やさない・埋め立てない」を原則とし、徹底したごみの減量・資源化を図りつつ持続可能で環境負荷の少ない都市を目指すこととしている。具体的には、2009年度ごみとして処理している9万9千tを2020年までに6万tに減らす計画で、ごみとして処理する量の40%を削減することになる。また、現状の資源化率27%を54%に進めることとなる。この答申をうけ、市は2011年4月『町田市一般廃棄物資源化基本計画』を策定した。この『町田市一般廃棄物資源化基本計画』をもとに2011年5月、『町田市資源循環型施設整備基本計画検討委員会』（委員長 細見正明氏）が発足。2020年度に新たなごみの資源化施設を稼働することを目指した検討が始まっている。この間の検討内容を、市民と意見交換し今後の検討に反映するため、意見交換会が市内7箇所で開催された。今回は最終回

### \*小山市民センターで出された市民意見の概要

○メタン化施設は一日処理量50トンと言う規模を広げ、「三多摩生ごみ資源化パワーステーション」というように、広域処理をした方が採算が取れるのではないのか。町田市の事業として、発展できるような取り組みにしたほうが良いのでは

○メタン化施設は小規模で実証実験すべき

○メタン化の際の生ごみの残渣はどのくらいか？先日の説明会では2割と言う話だった。横須賀市の例では4割という。残渣を燃やすのはおかしい。資源化とはいえない

○前回の審議会の委員だ。生ごみの資源化についてはメタン発行をメインの処理と決めた。しかし、残渣を燃やすということを決めていない。残渣を燃やすのであれば最初から資源化と言わず燃やせばいい。小さなかたちでの実証実験が必要。調査研究してほしい …※

○メタン化のためにはプラスチックが入らないようにきれいに分けることが必要

○環境を守ることは理解するが、お金がどのくらいかかるのか、費用対効果を考えることが必要

○八王子市が堆肥化センターを市との境につくろうとしている。町田市に説明はあったのか

○資源化基本計画は10年後の計画。現在の状況だけで判断するのではなく、生ごみを全量土に戻している先進都市はある。参考にしてほしい

○廃プラスチック資源化施設建設は、何故前回断念したのか？今回、100メートル以内の近隣の住民にも説明するのか？

○以前の廃プラスチック資源化施設建設の際、八王子の市民の「市境につくるのはおかしい」という声が新聞に載った。これは、おかしい。『館』の焼却工場だって市境じゃないか。今回、八王子の民間の堆肥化施設は、上小山田からは5メートル、いや6メートルぐらいしか離れていない

- 廃プラスチック資源化については、いろんなガスが発生する。科学的な調査・分析が必要。同時に市民に結果を公表すべき。住民が納得できる資料を提示すべき
- 検討委員会が公開され市民が自由に傍聴できるのはうれしいことだ。ごみを無くそうと取り組みをしてきた。問題意識の高い人はごみを減らすため努力するが、そうでない人も多い。安全な施設を建設することは必要だが、同時にごみの減量も言い続けたいとだめだ。減量目標を同時に示すことが大切だ
- 化学物質については、化学物質過敏症の人の対策が大事
- 化学物質について安全だというのであれば、新庁舎につくればいい
- ペットボトルをビンにすればいい
- プラスチックを使わないという減量化に取り組む
- この検討委員会のメンバーは何人か。そのうち、前回の審議会のメンバーは何人いるのか？真剣みが足りない
- 前回の審議会でのプラスチックの実験をした民間の施設の名前をなぜ言えないのか。その施設の名前を言えないのはおかしいし、そんな実験は信じられない
- エコとは如何に上手にお金と付き合うのかということだと思う。効率重視だけではだめだと思う
- 前回の廃プラスチック施設建設のとき反対運動をした。強引な施設建設の進め方への批判と同時に健康被害が起きるのでは、との心配があった
- プラスチックを資源化するといいいながら、今現在、黄色いゴミ袋に何でも入れて燃やしているのはおかしい

### 最終回に寄せて

**\* 今回の検討委員会によって、町田市では初めて一極集中だった処理施設・資源化施設の分散化が提案されたことは本当に意義深い。ただ残念なことだが「自分の所だけはやめてくれ」と言う市民がいることも事実。『分散化』とは「自分たちが出しているごみだから、責任をもとう」「どこかを何かを担おう」とする市民の姿勢そのものだ。こうした市民の姿なしに、ごみ問題は解決しない**

**\* これまでの経緯を時系列に並べ、問題点、解決策、現状、将来像を市民にしっかり説明する必要性を強く感じた。危険なものか有るのか無いのか、我慢しなければならないような悪臭・騒音・化学物質が有るのか無いのか・受け入れた地域にとってのメリット・デメリットなども含め、確かな情報を的確なタイミングで提示しなければ、判断は難しいのではないかと思う**

**\* 今回の意見交換会の参加人数の少なさは、関心の薄さが原因ではあると思うが、多くは語らずとも、きちんと分別する協力的な市民が育っていることも事実だ。突出した少数の意見と共に、検討委員会委員の方々には物言わぬ多くの市民の存在も忘れない様にして欲しいものだ**

**\* 資源化の意味合いも、ここ数年で目まぐるしく変わり、常に環境問題とセットで考えなければならなくなっている。毎日毎日排出され続けるごみ。将来を見通したより有効な施策を期待してやまない**

### 草の根

#### ※…町田市一般廃棄物資源化基本計画・資料編 P43～44

●バイオガス化施設の概要 (中略)・・・発酵残さは脱水処理されて脱水ろ液(脱離水)と脱水残さ(脱水ケーキ)に分けられます。脱水残さは焼却処理もしくは堆肥化されます。発酵残さの一部が液肥として利用されるケースもあります。